



リーハイのゆめ

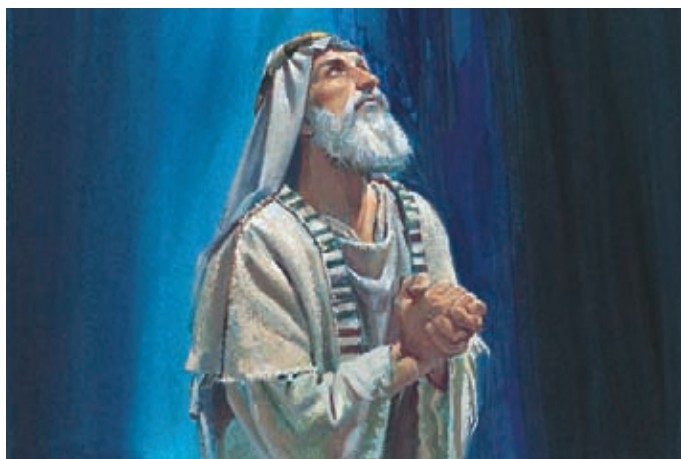
だい6しょう



リーハイはかぞくに、自分が見た大切なゆめの話をしました。リーハイはそのゆめを見て、ニーファイとサムのことはいれしく思いましたが、レーマンとレムエルのことを思うとかなしくなりました。(1ニーファイ8：2-4)



ゆめの中でリーハイは、白いころもをきた男の人を見ました。その人が、リーハイに、後について来るように言いました。くらくて、さびしいあれ野の方にすすんで行くその男の人について行きました。(1ニーファイ8：5-7)



くらやみの中を長い間たびをしてから、リーハイはたすけをもとめていのりました。(1ニーファイ8：8)



すると、白いみになっている1本の木が見えてきました。このあまくて白いみは、それを食べる人をしあわせにしてくれるものでした。(1ニーファイ8：9-10)



リーハイは、そのみを食べてよろこびにみたされたので、かぞくにも食べてほしいと思いました。そうすれば、かぞくもまた、しあわせになれるとわかっていたからです。(1ニーファイ8：11-12)



リーハイは、木のそばに川がながれているのを見ました。川のみなものとの方に、サライアとサムとニーファイがいるのが見えました。(1ニーファイ8：13-14)



そこでリーハイは3人に、木のみを食べに来るように大声でよびました。サライアとサムとニーファイはやって来て、そのみを食べましたが、レーマンとレムエルは、リーハイのところへ来ようとはしませんでした。(1ニーファイ8：15-18)



リーハイはまた、てつのぼうと、木のところへ通じているほそくてせまい道を見ました。(1ニーファイ8：19-20)



たくさんの人が、その道を目ざして歩いていました。ところが、あんこくのきりがおこったために、てつのぼうをはなして、道にまよった人もいました。(1ニーファイ8：21-23)



しかし、てつのぼうをしっかりとつかみ、くらのやみの中をとおって木にたどりつくことができた人もいました。その人たちは、木のみを食べました。(1ニーファイ8：24)



川のおうがわの大きなたてものに入った人びとは、木のみを食べた人をあざけりました。そこで木のみを食べた人の中には、はすかしくおもって木からはなれてしまった人もいました。(1ニーファイ8：26-28)



ほかにもリーハイは多くの人を見ました。てつのぼうにつかまり、くらやみをぬけて、木のみを食べた人たちもいましたが、大きなた
てもものほうにすすんだり、川におぼれたり、道にまよったりした人たちもいました。レーマンとレムエルは、木のみを食べようとしませ
ませんでした。しんばいになったリーハイは、二人が神のいましめをまもるようにさとしました。(1ニーファイ8：30-38)